

朴センター長受賞

毎日新聞・韓国朝鮮日報主催の「第21回日韓国際環境賞」

●平成27年10月29日/ 表彰式

朴恵淑センター長は、毎日新聞・韓国朝鮮日報主催の「第21回日韓国際環境賞」を受賞しました。

10月29日に東京のホテル椿山荘東京において行われた表彰式には、柳興洙（ユ・フンス）駐日韓国大使、関荘一郎環境事務次官、両国の外務省幹部なども列席して盛大に行われました。亀山市からは、西口昌利環境産業部長とセンター職員が列席いたしました

「第21回日韓国際環境賞」受賞挨拶の抜粋

この度は、私の環境研究及び環境活動に対して、荣誉ある日韓国際環境賞を頂き、大変光栄に存じます。

環境問題には、国境、民族、宗教、性別、世代間など、いかなる差別も存在せず、自然と人間との良好なバランスからなる、持続可能な社会を創る姿勢のみが解決の糸口となると思います。

私の環境研究や活動の基となっているのは、日本の4大公害、特に、大気汚染によって生態系が破壊され、多くの犠牲者を出した四日市公害であります。2000年から四日市公害から学ぶ「四日市学」を構築して、その発生メカニズムを究明し、生態系への影響を把握し、有効な環境政策は何だったのかを、人文社会科学的及び自然科学的、医学的側面を網羅する総合環境学的研究を行ってきました。半世紀前に発生した四日市公害問題は、いまだに四日市ぜんそく患者が存在し、豊かな自然はいまだ戻っていない現状があります。しかし、今年

3月には、四日市公害を風化させない、次世代を担う子どもたちへ四日市公害の教訓を伝えるための「四日市公害と環境未来館」がオープンしました。四日市公害の発生から半世紀の時間を経て、世界一の環境先進都市を目指す四日市市の未来に向けたプラットフォームができました。私たちの活動は、このプラットフォームを積極的に活用し、ユネスコが推進している持続可能な開発のための教育(ESD)の発展的展開のために、さらなる努力を致します。



「日韓国際環境賞」は、日韓国交正常化30周年に当たる1995年、毎日新聞社と朝鮮日報社が、東アジア地域の経済発展と環境保全の調和を図るため「日韓（韓日）国際環境賞」を共同で創設し、平成27年で第21回目となります。毎年、主催地を東京とソウルの交代で行われますが、21回目の平成27年は東京で行われました。